

会長就任挨拶

清水 芳久

Yoshihisa Shimizu

京都大学大学院工学研究科附属流域圏総合環境質研究センター 教授

EICA 会長の就任にあたり、これまで、EICA を維持・発展させて来られた諸先輩方のこれまでのご努力とご支援に敬意を表すると共に、感謝申し上げます。

私の EICA との関わりは、2002 年に平岡正勝先生が初代会長を辞され、松井三郎先生が会長になられたのと同時に、事務局長に指名された時に始まります。当時の企画委員長の後藤顕之輔さん（㈱明電舎：当時）を始めとして役員の方々に研究室にわざわざお越し頂いて、非常に愉しくお話をさせて頂きましたのを昨日のこのように記憶しています。

2007 年春には、事務局を岐阜から草津に移してからは現事務局次長の間處威俊さんに本当にご尽力を頂きました。また、事務局移転に際しては、当時の EICA 役員であった辻本進一さん（㈱タクマ：当時）、石川隆章さん（㈱明電舎：当時）、福島良助さん（㈱堀場製作所）、高見澤慎司さん（富士電機㈱：当時）、井手慎司先生（滋賀県立大学）、間處威俊さんらと一緒に、何度も岐阜に相談に行きました。

EICA の目的は、「環境問題の諸分野における計測・制御・システム化に関する研究や技術の進歩発達を図り、応用的技術の普及を通じて環境問題の解決に寄与すること」にあります。また、EICA の特徴としては、主として賛助会員や公益会員の方々に支えられているということにあります。企業や行政、大学等とのネットワークを密なものとし、情報交換を促進し、ビジネスや施策に反映させて頂ければという目標があります。また様々な専門の方々がお持ちの成果をご発表頂く場を提供するといった意味もあります。

最近では、平岡正勝先生が EICA を立ち上げられた 20 数年前とは社会経済面が大きく変化し、会員数も少しずつ減少してきて学会運営は決して楽な状況にはありません。事務局を草津に移転してからは多くの皆様のご努力により、ようやく年間予算の 3 割程度を次年度繰越金にできることになった状況です。今後共に賛助会員の皆様を始めとして、行政や大学等の皆様も含めた益々のご協力をよろしくお願い申し上げます。

今後、EICA は会員の皆様はもちろんのこと、周りからも魅力ある学会になるように、実現可能な具体策を提示して、実行して行く必要があると考えます。

福嶋良助さんと一緒に立ち上げた次世代を担う若手を対象とした未来プロジェクトおよび新・未来プロジェクトが、2011 年で第 7 期目になっています。2010 年からは未来プロジェクト出身者の田子靖章さん（メタウォーター㈱）を始めとした若手の方々に企画・運営をして頂いている状況です。また、2011 年 3 月に発生した東日本大震災後には、中里卓治さん（㈱ティエスジー）を中心に東日本大震災被害調査研究委員会を企画・運営して頂き、既に報告書も完成してもらっております。20 周年記念事業として開始されました「アジア地域の流域管理における計測自動制御技術調査専門員会」につきましても、早稲田邦夫さん（㈱日立製作所）や高見澤慎司さん（メタウォーター㈱）を中心に、井手慎司先生を委員長として活動をしている状況です。

EICA 会長として、決して名前だけの役職とならないように、また EICA のおかれている状況に対しての空気が読めないようなことにならないように、真摯に務めさせて頂ければと思います。もしその様な状況になりつつあるなど感じられた時には、どうぞご遠慮なくご注意を頂けますようお願い申し上げます。

未曾有の東日本大震災に見舞われ、復興への力強い槌音はきかれるものの、まだ道半ばという状況にあります。この厳しい時代に我々 EICA 会員は一市民として、また今後社会のリーダーとして EICA で培われた力を基礎に、持てる力を発揮し、そして世界を舞台にわが国と社会の未来を切り開いて行ければと強く思います。

最後に皆様の益々のご協力をお願いして、就任のご挨拶に代えさせて頂きます。よろしくお願い申し上げます。

